

地域の労働者と青年の結集をめざす

横三労連新聞

第42号

2010年3月15日発行



http://www.yokosan.info/index.htm e-mail:yv2t-tnk@asahi-net.or.jp docomo au/ソフトバンク

〒238-0006 横須賀市日の出町2-9 046-823-0210 (内線433)



メンテナンス市民シンポ に、90名参加!

2/20、「住民投票を成功させる会」主催で、原子力空母の定期修理を検証する「市民シンポジウム」が開催され、県内外から90名が参加しました。

新倉裕史さんは、「エード・メモワール」を書き換えた「ファクト・シート」によって「定期修理」が実施されていると報告。頼和太郎さん(リム・ピース)は、基地の監視活動で撮影した画像を用い、修理について報告。上澤千尋さん(原子力資料情報室)は、原子炉の構造や原発の点検、事故の実態などを報告。斉藤つよしさん(民主党衆議院議員)は、会が陳情した「定期修理」の問題点について、外務省に問い合わせた結果を紹介、米側の「原子炉修理はしていない」をそのまま回答とする外務省の姿勢を批判し、更に継続した取り組みを約束しました。

春闘学習会 & 評議員会開催!

2/12の第1回評議員会は、「2010年『国民春闘』で『変革』を本物に」と題する神奈川学習協会高橋勝也氏の学習会から始まりました。高橋氏は、構造改革により自殺者が12年連続で年間3万人を超えている事を取り上げ、この間の自殺者30~40万人は、イラク戦争の犠牲者数に匹敵すると指摘。また、警察署毎の集計で、一番自殺者が多いのが、愛知県豊田市である事も紹介されました。

また、春闘55年の歴史に学ぼうと、73年は1万5千円20.1%、74年は2万8千円32.9%もの賃上げを勝ち取り、それに伴って人事院も29.6%の引き上げを勧告するなど、大きな影響があった事を指摘。「『地域春闘』の旗が目に見えるように積極的行動を」と呼びかけました。

これに先立つ2/7には、地域総行動PARTとして、大滝商店会で宣伝を行い、500個のティッシュを40分で撒ききりました(写真左下)。掲げた要求は、「雇用・仕事の確保と賃上げで景気回復」「労働者派遣法の抜本改正」「後期高齢者医療制度の即時廃止」。PARTは、横須賀・三浦両市に、「公契約条例の制定」「非正規労働者の賃金引き上げ」「『核廃絶署名』の賛同」の3点で申し入れを行い、4月初めに回答を貰う約束を取り付けました。



NPT再検討会議に、 三浦市職労の青年が2名参加!

5月にニューヨークで開かれる核拡散防止条約(NPT)再検討会議に、三浦市職労の27歳の青年二人が参加します。一人は市職労の代表で、もう一人は三浦地区労の代表です。また、労組ではありませんが、神奈川みなみ医療生協では、三浦診療所の青年職員を代表派遣することが決まっています。同医療生協は、3/3に久里浜でNPT署名を行い、22名の参加で202筆の署名とカンパ4千円余を集めました。